

中間発表の反省と今後の方針

南山大学 数理情報学部 情報通信学科

2008MI148 森下 月菜

2008MI284 米澤 麻衣子

指導教員 青山 幹雄

シナリオ

- ✿ 中間発表のおさらい
- ✿ 題目に関する反省と方針
- ✿ 内容に関する反省と方針
- ✿ SLAに関する考察と方針
- ✿ SLA照合の詳細定義に関する考察と方針
- ✿ 提案方法の妥当性の確認に関する考察と方針
- ✿ 今後の方針まとめ

中間発表のおさらい

野呂先生からのコメント

1. 題目がカバーする範囲が広い
2. 必然性が理解不能

横山先生からの質問とコメント

1. SLAを使う際, 責任の所在については考慮するのか
2. SLA項目のどこを利用するのかを決めた方が良い



題目に関する反省と方針

中間発表題目

クラウドサービス要求工学

反省点

1. 題目がカバーする範囲が広すぎた
2. 要点が伝わりづらい
 - 要点を突くような題目にすべきだった

クラウドサービス
要求工学

クラウドサービス
選択手法

方針

- ✓ 中間発表の題目よりも要点を突く題名に変更する



内容に関する反省と方針

反省点

提案する手法に関して必然性をアピールしていなかった

- 必然性を感じない提案
- 何が優れているのか不明な提案

方針

1. 前提条件の整理
 - クラウドとシステム開発の違い
 - マッチングの必要性
2. 整理した結果の有効活用
 - どこがどう良いのか, 伝わり易い工夫

クラウド

≠



システム開発

SLAに関する考察と方針

考察

サービス組織の責任などSLAの項目をどこまで利用するのか

- 責任の所在を考慮したいコンシューマも存在する可能性

方針

1. 責任の所在は考慮しない
2. 責任の所在以外のSLA項目について活用方法を模索

責任や保証の
有無は無視



コンシューマ

プロバイダ



SLA



SLA照合の詳細定義に関する考察と方針 (1/2)

機能要求によるSLAの絞り込み

- ✓ 機能要求に対して、優先順位の高い要求を含むSLAを抽出

機能要求リスト

1.
2.
3.

参照



絞り込み

- (1) 機能要求でSLAを絞り込む
- (2) 機能要求が一致するSLAをSLAの評価で利用



考察

1. 機能要求の中で一番優先順位の高い要求が最も重要な要求
 - 機能要求の中で一番優先順位の高い要求は絞り込む上で最低限必要
2. 機能要求の中で優先順位が3位までの要求を含むSLAを絞り込む
 - サービス形態によっては、提供する機能が少ない可能性がある

方針

- ✓ 機能要求の中で優先順位が一番高い要求を含むSLAを絞り込む

SLA照合の詳細定義に関する考察と方針 (2/2)

非機能要求によるSLAの評価

- ✓ 非機能要求に対して、SLA項目との一致度を評価し、スコアを付加

非機能要求リスト

1. 信頼性
2. 可用性
3. 効率性
4. ……

参照

評価(一致度, スコア)

- (1) SLAに対し、非機能要求を照合
- (2) 要求のスコアを算出

一致度と要求の優先順位で算出

SLA A
スコアA

SLA C
スコアC

考察

1. 評価基準
 - 非機能要求とSLA項目との一致度
 - 一致度と非機能要求の優先順位により算出するスコア
2. 評価基準の数値化
 - SLA項目の中で数値で表されていない部分をどう表現するか

方針

- ✓ SLAに関する評価のモデルを考え、数値化する

今後の方針まとめ

題目の変更

- ✓ 研究の要点を突く題目をつける

提案内容の整理と活用

- ✓ 前提条件の整理し、アピールすべきポイントの洗い出し
- ✓ ポイントをうまくアピール

SLAの利用方法の決定

- ✓ 責任の所在以外のSLA項目の活用方法の決定

SLA照合の詳細定義

- ✓ 機能要求の中で優先順位が一番高い要求を含むSLAを絞り込む
- ✓ SLAに関する評価のモデルを考え、数値化

非機能要求とサービスレベルの対応関係の定義

- ✓ 対応関係間の依存関係の定義

提案方法の妥当性、有用性の確認

- ✓ クラウドの実例を用いた妥当性、有用性の確認
例) Google, Amazon

中間発表の反省と今後の方針

END

南山大学 数理情報学部 情報通信学科

2008MI148 森下 月菜

2008MI284 米澤 麻衣子

指導教員 青山 幹雄